

教科書をきっかけにして、題材を自分事として捉え、 自分の考えを表現することができる生徒の育成

—単元のゴールとなる言語活動から逆算した単元構想と一単位時間の中で題材を身近に感じられる工夫を通して—

前橋市立南橋中学校 清水 彩

I 研究の背景

中学校学習指導要領解説 外国語編（平成 29 年告示）には、題材は生徒の発達段階や興味・関心に応じて、英語を使う人々の生活や文化などから選ぶことが示されている。教科書を読み物として学ぶだけで終わらせず、教科書をきっかけに題材を生徒自身の経験や感情、興味・関心とを結び付け、仲間と共に深く考えることが必要であると考え。一方、日常の授業では、教科書本文の内容理解に留まり、題材を自分の経験や関心と結び付けて捉え、自分の考えを形成し、相手意識をもって英語で表現するまでには至っていないという課題がある。

これらの課題を踏まえ、教科書の題材を自分事として捉え、相手意識をもって自分の考えを表現することができる生徒を育成するための授業改善が必要と考える。本研究において「題材を自分事として捉え表現する」とは、「教科書をきっかけに、題材を自身の経験や関心と結び付けて、広げたり深めたりして捉え、自分の考えとして表現すること」と定義する。そのため、教師は目的・場面・状況を明確にした単元のゴールとなる言語活動の設定と、毎時間の学びを設計するとともに、一単位時間の中に、題材を身近に感じられる工夫を位置付ける。

以上のことから、本研究の主題及び副主題を設定した。

II 研究の目的と方法

1 目的

「単元のゴールとなる言語活動から逆算した単元構想」と「一単位時間の中で題材を身近に感じられる工夫」を通して、教科書をきっかけとして、題材を自分事として捉え、自分の考えを表現することができる生徒の育成を目指す。

2 方法

【手立て 1】単元のゴールとなる言語活動から逆算した単元構想

単元構想とは、生徒の興味や関心、実態を踏まえ、教科書の単元をどのような意図・目的で構成するかという全体的な構想・ビジョンを示したものである。手立て 1 では、教科書の題材をきっかけとして、題材をいかに生徒自身が自分事として捉え、表現につながるかどうかという点から単元を構想する。

まず、生徒が「やってみたい！」と思えるような目的・場面・状況に加え、誰に向けて伝えるのかという相手意識を明確にした単元のゴールとなる言語活動を設定する。次に、単元のゴールとなる言語活動で題材を自分事として捉えて自分の考えを表現している生徒の姿を想定し、それに向けて毎時間の授業が積み重なるよう、単元構想を練る。次に、教

師は、題材に対する既存の知識を揺さぶる問いや、様々な立場の人の意見を知る機会を設定し、生徒が自分事として捉えられるよう考えに揺さぶりをかける。こうした単元構想を行うことで、生徒が題材を自分事として捉えながら考えを積み重ね、最終的に単元のゴールとなる言語活動へとつなげられるようにする。

【手立て2】一単位時間の中で題材を身近に感じられる工夫

生徒が題材を自分事として捉え表現できるように、一単位時間の中で以下の三つの場面において題材を身近に感じられるようにする。

一つ目は、Chat である。Chat とは、教師が題材に関わる話題を示し、生徒がペアで行う即興の対話活動である。対話後は、表現できなかった内容を全体で共有する。二つ目は、Oral Interaction である。Oral Interaction とは、教師と生徒が英語を用いて題材について対話をし、考えや情報をやり取りする活動である。三つ目は、振り返りである。各単位時間において、題材に対する考えや気付き、自分事としての捉えを振り返りシートに記録する活動である。単元のゴールとなる言語活動に向け、三つの活動を通して題材を自分事として捉え、表現につなげられるようにする。

III 実践

本研究では、第3学年を対象に、「Unit 4 AI Technology and Language (Here we go! ENGLISH COURSE 3 光村図書)」(全10時間計画)において授業実践を行った。本単元における単元計画と手立ての位置付けを資料1に示す。

1 単元のゴールとなる言語活動から逆算した単元構想

単元構想では、単元のゴールとなる言語活動における生徒の姿を想定して計画を立てた(資料1)。本単元「AI Technology and Language」は、生徒にとって身近に関心を持ちやすい題材である一方、扱う内容が広いため、AI技術の一例として「自動翻訳機」を取り上げ、普及してもなお英語を学ぶ必要があるのかという問いを設定した。

生徒が自分の意見を英語で表現したいと自然に思うことができるよう、「自動翻訳機が普及してもなお英語を学ぶ意義」を考え、生徒にとって身近な後輩である2年生に向けた英語メッセージビデオを作成することを単元のゴールとなる言語活動に設定した。なお、教科書の年間指導計画ではUnit 4のゴールは「読むこと・書くこと」であるが、本実践では「話すこと(発表)」とし、他の単元における言語活動と調整することで、年間全体で5技能のバランスを考慮した。

単元のゴールとなる言語活動に向け、題材を自分事に捉え表現につなぐことができるよう、第1時から計画的に生徒の考えに揺さぶりをかけた。第1時では、AIの利点を肯定した上で質問を提示し、教科書の題材に対する既存の知識を揺さぶるようにした。第4～6時では、映像資料、校長やALTの意見などの多様な視点を取り入れ、英語学習の必要性について多角的に考えられるようにするとともに、教科書本文や新出文法の扱いも単元のゴールとなる言語活動に関連付け、単元を通して一貫した流れとなるように構成した。

2 一単位時間の中で題材を身近に感じられる工夫

第6時では、英語を学ぶ理由について自分の考えを整理して話すことを目標とした。Chatでは“What do you want to do using English?”を話題に対話を行い、友達の意

見を取り入れながら自分の考えを広げられるようにした。対話後には、言いたかったが表現できなかった内容を教師が板書して共有し、次時の Chat で生かせるようにした。英語学習の目的について話す前に、友達の見見も取り入れながら、「英語を使ってどんなことができるのだろう」という視点で思考を促し、「自分だったら…」と生徒一人一人が自分の考えを広げられるように計画した。

Chat のやり取りだけでは思考の広がり限定されるため、教師が Oral Interaction を行い、教科書の題材と生徒の考えをつないだ。「英語学習は必要か」というテーマで、多様な立場の見見を板書で整理し、自分の考えとの比較を促した(図1)。また、生徒の発話や振り返りを教師が事前に把握し、意図的に取り上げて授業を展開した(図2)。これらの活動を通して、英語学習の必要性について、多様な視点から考えられるようにした。

毎時間の授業の終末には振り返りを位置付け、題材に対する考えや気づきを整理できるようにした。本授業では「英語を学ぶ必要性について、新たな見見や学びがあったか」「それを参考にしながら自分の考えを述べられたか」という視点を示し振り返りを行うことで、生徒の考えの変化を可視化し、単元のゴールとなる言語活動につなげられるようにした。



図1 肯定派の様々な見見を出した板書

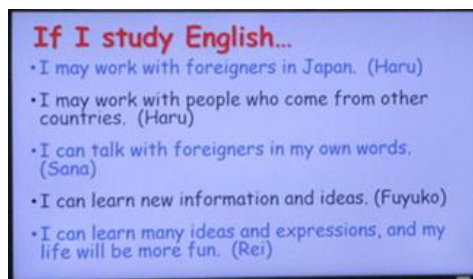


図2 モニターに示した生徒の振り返り

IV 結果と考察

1 アンケート結果から

手立て1の設問「Unit 4の授業の中で何時間目が一番印象的だったか」において、第9時を挙げた生徒が24%で最も多かった。第9時は、相手に伝わる表現を意識して自分の考えを発表・録画する活動であり、単元のゴールとなる言語活動に最も直接結び付く時間であった。生徒の振り返りからも、英語を学ぶ理由を考える姿が見られた。これらのことから、明確な目的意識と相手意識をもった言語活動の設定が、題材を自分事として捉え、自分の考えの表現へとつながったと考える。

手立て2の設問「教科書の題材に関して、自分の考えを深めていくために役立ったものは何か」については、Chat (84%)、Oral Interaction (64%)、振り返り (20%) という結果であった。中でも Chat は、最も多く挙げられ、思考を広げる起点として機能していた可能性がある。一方、「毎時間書き溜めてきた振り返りシートの内容は、自分の考えを深めるために役立ったか」という設問では、「役立った (48%)」「まあまあ役立った (44%)」という回答が得られた。その理由として、「前に書いた振り返りを読むことで、考えの変化に気付いた」「自分の見見を整理するのに役立った」といった記述が見られた(資料4)。振り返りは即時的な実感は得にくいものの、生徒が自分の考えを整理・蓄積し、表現へとつなげる基盤として機能していたと捉えられる。以上の結果から、Chat・Oral Interaction・振り返りを関連付けることで、生徒は題材を自分事として捉え、主

題に迫ることができたと考える。

2 単元を通した生徒の様子

生徒Aは第5時に校長のスピーチ映像を視聴した。その内容は、学ぶことで人生が豊かになり、英語は世界の人や情報とつながる力になることや、正確さよりも気持ちを伝えようとする姿勢が将来の生き方や考え方を広げること

表1 生徒Aと教師(Teacher以下“T”)とのやり取り【第6時・前半】

T: What do you want to do using English?
A: <u>I want to watch foreign movies.</u>
T: I see. You want to watch foreign movies. Which movie do you like?
A: I like... Umm... I like action movies. ...

ことを生徒に伝えるものであった。第6時のChatでは、外国映画を楽しみたいという自身の興味・関心に基づく理由へと考えが変化した(表1)。

また、第6時のOral Interactionでは「日本で働く場合も外国人と関わる可能性がある」という他の生徒の振り返りを教師が取り上げたことで、新たな視点が生徒Aに生まれ、将来外国で働くことや海外で活躍する夢について語る意見が見られた(表2)。授業後の聞き取りから友だちの考えが生徒Aに影響を与えていたことが確認できた。

表2 生徒Aと教師とのやり取り【第6時・後半】

T: Why do you study English?
A: <u>I want to work in foreign countries.</u>
T: I see. Wow, you want to work in foreign countries? What job do you want to do?
A: <u>I want to become a makeup artist in the world.</u>
T: 知ってた!? I'm so surprised to hear that! Any others?
Why do you study English?
A: <u>I want to travel abroad.</u>
T: Which country do you want to go? ...

これらの学習を通して、生徒Aは英語学習を個人的な関心に留めるのではなく、社会と関わるための手段として捉えるようになり、単元のゴールとなる言語活動では、生徒Aの英語を学ぶ理由が

「自分の世界を広げたい」「自分の言葉で気持ちを伝えたい」という内発的な動機へと変容した(表3)。生徒Aの表現には、校長のスピーチや友だちの振り返りの英語表現、板書に整理した登場人物の考えや、教師の使用した英語表現が反映されていた。多様な他者の考えや表現に触れながら、自身の考えを再構成したと捉えられる。

表3 生徒Aのメッセージビデオ【第9時】(一部抜粋)

First, <u>studying English is a valuable experience that will help us broaden our worldview.</u> If you can speak English, there are many things you can do. For example, you can enjoy communicating with foreigners, and you can make foreign friends. My world becomes bigger. Second, I think learning foreign languages is still important. AI technology has made great progress lately. It has become a part of our daily lives. But I don't want to rely on a machine to communicate with people. <u>I think I can talk with foreigners in my own words.</u> ...
--

V 研究のまとめ

1 研究の成果

単元のゴールとなる言語活動から逆算した単元構想と、Chat・Oral Interaction・振り返りの3つの活動を一単位時間の中に関連付けた授業構成を通して、生徒は題材を自分事として捉え、自分の考えを形成し表現することにつながった。

2 課題と今後の展望


思考の深まりには個人差があり、多様な意見を自分の考えに結び付ける点に課題が残った。今後は、異なる視点を比較・関連付けながら、反対意見や別視点も含めて考えられる問いの工夫や、振り返りをOral Interactionで意図的に取り上げることを通して、生徒の思考の深化と表現力の向上を図っていきたい。

【資料1】

Reflection (振り返り)

Unit 4 AI Technology and Language 単元の課題
 中2に向け、「何のために英語を学ぶ? AI技術があっても、私が英語を学ぶ理由」
 についてのメッセージビデオを撮影しよう

class	No.
name	

 自己目標	ポイント [目標達成のための工夫]	・自分のメッセージをより分かりやすく2年生に伝えるために、どんな話し方をするといいかな。 ・メッセージを撮影するために、教科書のどんな表現や書き方が生かせそうかな。
---	----------------------	---

No.	Date / Today's Goal	①今日できるようになったこと・そのために工夫したこと ②わからなかったこと・できなかったこと(自己目標達成のために…次時の課題) ③題材について、新しく学んだこと・気づいたこと・思ったこと
1	身近なAI技術にはどんなものがあるかを考え、欲しいAIツールについて話せるようになるよう	関係代名詞 which
2	AI技術はどのような機器に使われているのか、記事を読み取ろう	Part 1
3	自動翻訳機はどんな人が使うものなのか、メリットやデメリットについて考えよう	関係代名詞 who
4	英語の勉強が必要かどうかを考えよう	Part 2 & Goal (Mr. Panda) 映像「自動翻訳機のおもてなし練習」
5	英語を学ぶ理由を考え、友だちと意見を交流しよう	関係代名詞 that ALTと校長先生のスピーチ・映像「外国語を学ぶ理由」
6	英語を学ぶ理由について、自分の考えを整理して話せるようになるよう	Part 3 映像「社内公用語化」
7	「私が英語を学ぶ理由」とメッセージが、後輩たちによりわかりやすく伝わるように内容を整理しよう	Goal (Ms. Cat / Mr. Robo / Ms. Ninja)
8	友達の発表を見て、自分の発表に生かそう	
9	相手に伝わる工夫を考えながら発表を録画しよう	
10	お互いの映像を見合い、良いところを見つけよう	

() 内は生徒には空欄で配布しています

単元全体の振り返り

【資料2】

Chatを通して、どのような内容を知ることができましたか。どのような内容が役立ちましたか。

- ・同じテーマで何回か喋ることで、頭の中に内容が入りやすかった。
- ・友だちの意見を聞き、新たな考えを知れた。
- ・自分の考えられなかったような意見がたくさん出てきて、新しく知れることができ、感想を書く時に役に立った。
- ・一つの題材で、自分以外の意見や考えを知れるから、考え方が広がった。
- ・相手の意見や言い方を知ることができた。相手の意見を知ること自身意見にも説得力を持たせることができた。
- ・普段日本語で使っているけど英語だとわからない(習っていない)単語を知ることができた。
- ・実際に外国人と話すときに使える表現がある。相手の内容によって Chat の全部の内容が変わるのが楽しい。
- ・自分とは違う友だちの思ったこと、意見を知ることができた。違う言い方などを知った。英語で人と自然に会話をする練習になった。
- ・自分の発音が聞けるので、どういうふうに発音したほうがいいのかや、友だちの意見を聞けるので参考になった。
- ・普段あまり話さない英語で話すことができ、自分の発音がどうなっているのかもよく知ることができた。

【資料3】

Oral Interaction(教科書や文法について、写真やイラスト等を使いながら先生がみんなと話す内容)を通して、どんな内容を知ることができましたか。

- ・日常あるものでどのようなものに AI が使われているか。
- ・AI が身の回りのいろいろな場所に普及しているのだなと思った。
- ・英語の授業が必要か、というところが印象的だった。
- ・イラストなどを使うことによって、文をイメージしやすくなり、自然に文法などが入り、覚えることができた。
- ・それぞれの登場人物が何について言っているのか知ることができた。
- ・Unit4 で出てくる単語や情景を写真やイラストで表していて、AI をどんな場面で使うかや、どんな種類があるのかを知ることができた。
- ・写真やイラストを見ながら授業をすることで、記憶に残り自分での学習よりも理解が深まったと感じた。
- ・グラフや写真を用いて説明してくれるのでこの意見はここ、この意見はここ、と今どの立ち位置かわかりやすかった。
- ・言葉を聞くだけではイメージできなかったものを、写真やイラストを見ることによって理解を深めることができた。

【資料4】

毎時間書き溜めてきた振り返りシート③(題材について新しく学んだこと・気づいたこと・思ったことを記入)の内容は、自分の考えを深めるためにどのように役立ちましたか。

- ・自分の意見をまとめる時の根拠を作る時に役立った。
- ・過去の自分の考えと、今の考えを組み合わせ、新しい考えを生み出すことができた。
- ・その時間に何を学んだか思い出すのによかった。
- ・自分の将来の夢に対し深く考えることができた。ビデオメッセージにもつなげることができた。
- ・一番最初の振り返りから確認できるため、過程がわかり、自分が思い出せないことも見ることですぐに思いだせる。
- ・学んだことや印象に残ったこと、課題点を書いたりそれについて先生がコメントをしていたりするのが役に立った。

<参考資料>

本多敏幸(2009)英語力がぐんぐん伸びる! コミュニケーション・タイム—13 の帯活動&ワークシート— 明治図書出版株式会社

文部科学省(2018)中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 外国語編 開隆堂出版株式会社

【教科用図書】

光村図書 中学校 3 年 Here We Go! ENGLISH COURSE 3